

複合死因データを用いた糖尿病関連の死亡

Analysis of Relationship between Diabetes and Other Causes of Death Using Multiple Causes of Death Data in Japan

別府志海¹・石井太¹・林玲子¹・篠原恵美子²

(1.国立社会保障・人口問題研究所, 2.東京大学)

Motomi Beppu¹, Futoshi Ishii¹, Reiko Hayashi¹ and Emiko Shinohara²

(1. National Institute of Population and Social Security Research, 2. Univ. of Tokyo)

beppu-motomi@ipss.go.jp

日本の死亡統計は死因届を元に作成される。この死亡届は右側半分が死亡診断書もしくは死体検案書（以下、死亡診断書等）となっており、医師が死因など死亡時の状況について記入する。死亡診断書等の死因欄は、「最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番」をア～エの4つまで、「直接には死因に関係しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等」を1つ記載できる。『人口動態統計』では、WHOの考え方に従い、いくつか列記された死因から原死因（underlying cause of death）を1つ選択し表章している。

しかし死因を1つに限定することで疾病間の関連など逆に見えなくなる情報も存在する。例えば、医療の進歩は感染症の罹患期間を減らした一方、生活習慣病等では「回復なき延命」がもたらされたとされる（Riley 2001, p97）。本報告では特に糖尿病に焦点を当て、複合死因データを用いた分析を試みる。なお、死亡個票ではデータがコード化されておらず、死因名がそのまま記載されている。そこで記載された死因名をICD-10ベースに変換し、分析に用いている。また、死因間の分析を行う目的から、死因が外因の場合についてはコード化および分析の対象から除外している。

糖尿病は直接死因として1欄ア～エ、特に1欄アに記載されることは少なく、直接死因を引き起こした死因である1欄イまたは1欄ウ、もしくは間接死因である2欄への記載が多い。原死因が「糖尿病」の場合、1欄ア以外では「糖尿病」の割合が高く、1欄イ～エでは6割以上を占めている。また原死因が「糖尿病」の場合の直接死因は「腎不全」が3割ほどで高く、次は2009年までは「その他の型の心疾患」、2010年からは「全身症状及び徴候」に代わっている。「虚血性心疾患」の割合は低下傾向にあるものの、2016年でも5.1%を占めている。

糖尿病は腎不全ならびに循環器系疾患である心疾患・脳血管疾患を併発する 경우가少ない。こうした疾患は、仮に一命を取り留めたとしても後遺症を残すことがあるが、後遺症によって日常生活動作に影響が出ると、主観的健康感は大きく悪化する（別府・高橋 2018b）。健康寿命を延ばしていくという観点からも、糖尿病のように他の重篤な疾病を併発しやすい疾患の予防が求められる。